

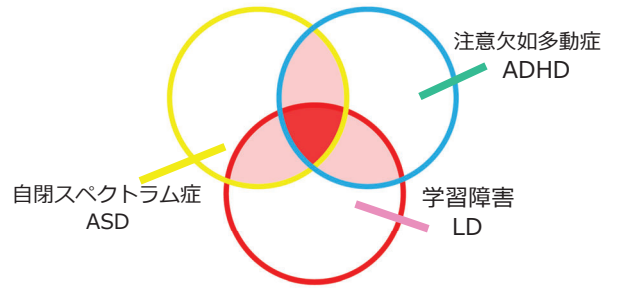
# 子どもたちの未来に寄り添う

—発達障害がある思春期・青年期の子どもの支援について—



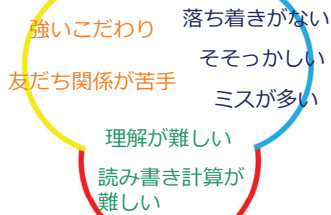
信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室  
 附属病院子どものこころ診療部  
 長野県発達障がい情報・支援センター  
 本田秀夫

## 発達障害（神経発達症）とは？



ほか 小児期発症流暢症（吃音）、発達性協調運動症、チック症など

## 発達障害（神経発達症）とは？

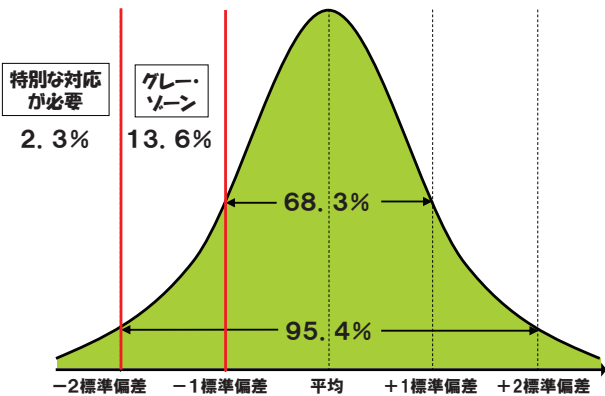


重複しやすく、生活に支障をきたす

## 神経発達症群（DSM-5-TR）

- 知的発達症群  
知的発達症など
  - コミュニケーション症群  
言語症、語音症、小児期発症流暢症（吃音）、社会的（語用論的）コミュニケーション症など
  - 自閉スペクトラム症（ASD）
  - 注意欠如多動症（ADHD）
  - 限局性学習症（SLD）
  - 運動症群  
発達性協調運動症（DCD）、常同運動症など
  - チック症群  
持続性（慢性）運動または音声チック症など
  - 他の神経発達症群
- 法制度の「知的障害」
- 法制度の「発達障害」

## 正規分布



## 境界知能

- 知的発達症と正常知能との境界域の知的水準を示す概念
- 理論値では、人口の約2%が知的発達症、約14%が境界知能に該当すると考えられる

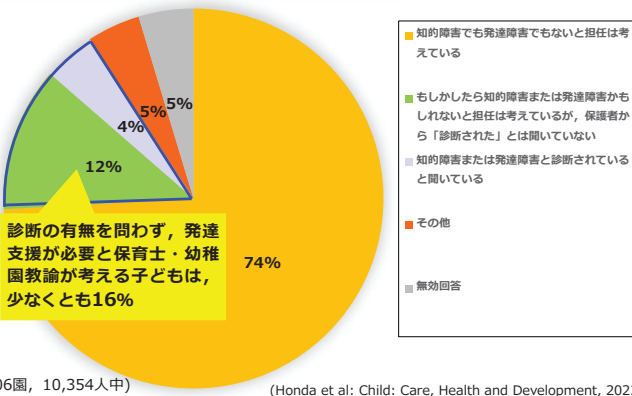
## 境界知能は「障害」なのか？

- 国際診断システムにおいて、境界知能の人たちの多くは顕著な不適応を示すことなく社会生活を送ると想定されている
- ただし、心理的負荷や他の発達障害との重畳などによって多様な精神医学的問題を呈する可能性のあるハイリスク群であるとの認識がある

（60歳・男性／長野県）  
本田秀夫

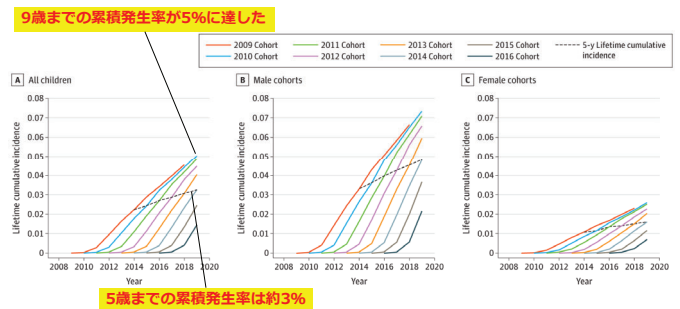
グレーとは  
白ではなくて  
薄い黒

## 長野県および山梨県の保育園・幼稚園における 神経発達症が疑われる子どもの実態調査



JAMA Network

## 自閉スペクトラム症と診断された子どもの累積発生率の年次推移 (2009年度～2016年度生まれ)



## 質問項目に対して学級担任等が回答した内容から、 「学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒数の割合

<小学校・中学校>

	推定値 (95%信頼区間)
学習面又は行動面で著しい困難を示す	8.8% ( 8.4% ~ 9.3% )
学習面で著しい困難を示す	6.5% ( 6.1% ~ 6.9% )
行動面で著しい困難を示す	4.7% ( 4.4% ~ 5.0% )
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	2.3% ( 2.1% ~ 2.6% )

<高等学校>

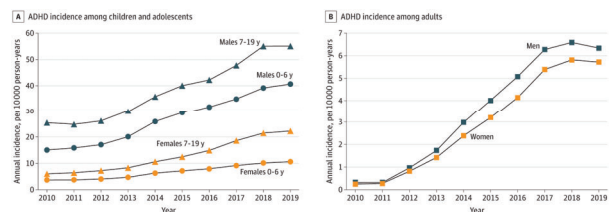
	推定値 (95%信頼区間)
学習面又は行動面で著しい困難を示す	2.2% ( 1.7% ~ 2.8% )
学習面で著しい困難を示す	1.3% ( 0.9% ~ 1.7% )
行動面で著しい困難を示す	1.4% ( 1.0% ~ 1.9% )
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	0.5% ( 0.3% ~ 0.7% )

※「学習面で著しい困難を示す」とは、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」の一つあるいは複数で著しい困難を示す場合を指し、一方、「行動面で著しい困難を示す」とは、「不注意」「多動性-衝動性、あるいは「対人関係やこだわり等」について一つか複数で問題を著しく示す場合を指す。

(文部科学省:通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について, 2022)

JAMA Network

## わが国におけるADHD診断の発生率の年次推移 (2010年度～2019年度)



新たにADHDと診断された割合の、2010年度から2019年度にかけての増加率：  
0歳～6歳：2.7倍 (女2.9倍, 男2.7倍)  
7歳～19歳：2.5倍 (女3.7倍, 男2.2倍)  
20歳以上：21.1倍 (女22.3倍, 男20.0倍)

(レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) を用いた調査)

Sasayama D et al (2022): JAMA Network Open

## 小児期から成人期にかけての変化

### 知的障害

- 就学後に知能が大幅に上昇する症例は稀である

### 自閉スペクトラム症

- 対人行動の質的異常は、軽減するがゼロにはならない
- 興味の限局やこだわり行動は、対象や様式を変えながら持続する

### 注意欠如多動症

- 多動・衝動性は、軽減するがゼロにはならない
- 不注意症状は、青年期・成人期の方が問題となりやすい

## 過剰なストレスやトラウマを予防できた 発達障害の特性がある人の青年期

1. 真面目になる
2. 言行一致で信頼できる
3. 理念としての正義感や思いやりがある
4. 協調行動をとる意欲は身につけている
5. 臨機応変な対人関係は苦手

## 神経発達症本来の特性とそうでないもの

### 本来の特性

- 対人関係・コミュニケーション・活動のパターン化・こだわり・感覚の異常 (ASD)
- 多動・衝動・不注意 (ADHD)
- 読字・書字・計算 (SLD)
- 粗大運動・微細協調運動 (DCD)

### 本来の特性ではないもの

- 感情・情緒の変動
- 睡眠の異常

## 神経発達症の「症状」は、 自然経過で悪化はしない

ほとんどの場合、悪化しているのは環境との相性

- クラス替え
- 部署の異動
- 担任・上司の交代
- 教育方針の変更
- 友人の態度の変化 など

## 育ち方の5タイプ

- 特性特異的教育タイプ
- 放任タイプ
- 過剰訓練タイプ
- 自主性過尊重タイプ
- ハラスメント・タイプ

## 軽度知的発達症・境界知能の 人たちのメンタルヘルス問題

- 常に他の子どもたちよりわずかに遅れをとるため、自己評価が低い形で固定しやすい
- ASDまたはADHDを伴う場合、学業不振のみならず同世代のなかで孤立しやすい
- 親や教師は「やればできるのに怠けている」などと解釈し、本人の自己評価の低さや孤立感に気づかない。
- 二次的な情緒や行動の問題を生じやすい。

## 「選好性 (preference)」からみた自閉スペクトラム

### 関心

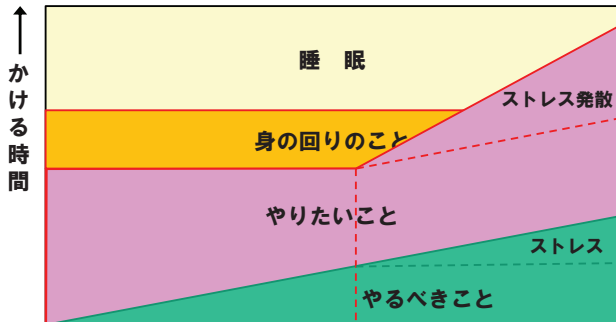
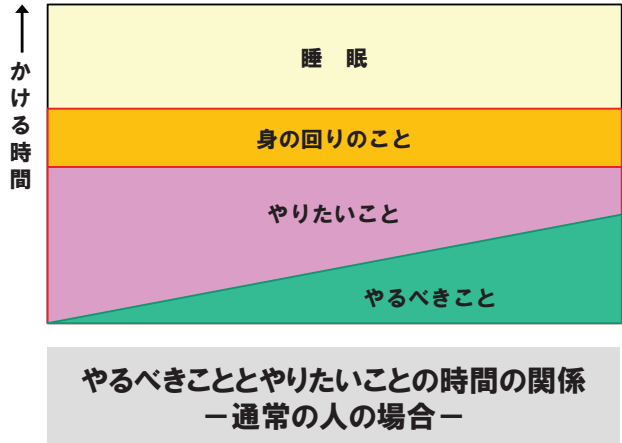
特定の物に強い興味をもつ  
(反面, それ以外の物にはほとんど興味がない)

### やり方

特定の手順を繰り返すことにこだわる  
常同的な動作を繰り返す

### ペースの維持

他者にペースを乱されたくない



## 発達障害の人の健康でハッピーな生き方

- プライベートタイムを最優先する
- やりたいことから順にやる
- 睡眠はちゃんととる
- やるべきだが気が進まないことは、余った時間にする

## 過剰適応

自分のやりたいことや都合を過剰に我慢して、  
周囲に合わせることを無理にがんばり過ぎること

## 登園しぶりからASと判明した女兒

ごっこ遊びが好きではないのに保育園でごっこ遊びに  
笑顔で参加していた。

- みんなもごっこ遊びは嫌いだけど, 保育園ではごっこ遊びしなきゃいけない
- みんなも我慢してやっているから, 私我慢してやらなければいけない
- 笑顔は作り笑い

社会的カモフラージュ行動をとりやすいASDの人ほど  
 全般性不安(GAD-7), うつ(PHQ-9), および社交不安(LSAS)の  
 臨床的カットオフポイントを超える割合が高い

	カットオフを超えるスコアリングの確率		
	GAD> = 10	PHQ> = 10	LSAS> = 30
CAT-Q = 25	.04	.13	.16
CAT-Q = 50	.09	.22	.44
CAT-Q = 75	.19	.36	<b>.76</b>
CAT-Q = 100	.37	.51	.92
CAT-Q = 125	<b>.60</b>	<b>.67</b>	.98
CAT-Q = 150	.79	.80	.99
CAT-Q = 175	.90	.88	.99

(Hull et al, 2021)

## 過剰適応する発達障害の人たち

- 好きなこと・やりたいことよりも、やらねばならないことにこだわる
- ストレスがたまりやすいが、他者にわかってもらいにくい
- 「意欲的にふるまう」という過剰適応行動もある
- 後で、極度の疲労感を覚える

## 逆説的高望み

元来のノルマ化の傾向が病的に強まった状態

「苦手な科目を克服するために大学進学して、その科目を専攻しなければならない」

「有名大学に入らないとまともな人間になれない」

## 被害関係念慮

被害的だが、背景には低い自己評価がみられる

## 依存症の「自己治療仮説」

依存とは、快楽を得るためでなく、

心の傷を癒すための行為である

(E.J.カンツィアン & M.J.アルバニーズ)

## 神経発達症・境界知能の人たちに 思春期以降にしばしばみられる行動の問題

- いたずらなどの注意喚起行動
- 自傷(リストカットなど)
- 万引き, 窃盗
- ひきこもり
- 暴力

## 小学校の『入学のしおり』から

- ・ 人に呼ばれたとき、「はい」とはっきりと返事ができる
- ・ 人の話をしっかり聞ける
- ・ 自分の名前や家族の名前が言える
- ・ 自分の名前(ひらがな)を読むことができる
- ・ 自分で身の回りの始末をすることができる
- ・ 自分で洋服を脱いだり着たりすることや、脱いだものをたたむことができる
- ・ はしやスプーンを使って、自分で食事ができる
- ・ 排泄の始末ができる

## マイクロアグレッション

ありふれた日常の中にある、ちょっとした言葉や行動や状況であり、意図の有無にかかわらず、特定の人や集団を標的とし、人種、ジェンダー、性的指向、宗教を軽視したり侮辱したりするような、敵意ある否定的な表現のことである(Sue, Capodilupo, et al., 2007)。加害者はたいてい、自分が相手を貶めるようなやりとりをしてしまったことに気づいていない。

(デラルド・ウィン・スー (2021) 「日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション」より引用)

宿題は

百害あって

一利なし

全員に一律の

(60歳・男性／長野県)  
本田秀夫

## Y-LABiC Study

(Yokohama - Longitudinal Autism Birth Cohort)

▶ 横浜市港北区で1988年～1996年に生まれた31,426名中、7歳までにASDと診断された278名(0.88%)の長期追跡調査

▶ 調査期間 2017年5月～2020年3月

➡ 電話で連絡がとれた 189名

➡ 研究への参加を承諾した 170名 (61.2%)  
フォローアップ率

▶ 170名中113名(66.4%)は、幼児期から調査時点まで継続して発達精神科医と公認心理師によってフォローをうけていた

(Iwasa et al: J Child Psychol Psychiatry, 2022)

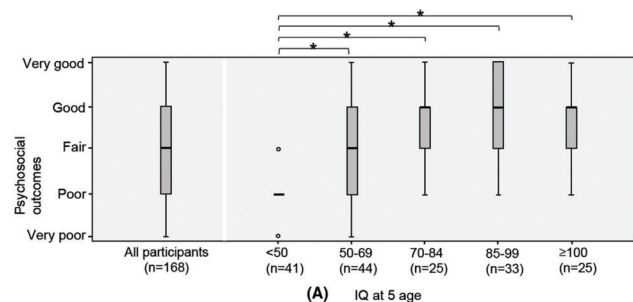
## 対象者の特徴

	全体 (n = 170)	IQ ≥ 70 (n = 85)	IQ < 70 (n = 85)
早期療育*	138/170 (81.2%)	60/85 (70.6%)	78/85 (91.8%)
特殊教育／特別支援教育			
小学校入学時*	115/166 (69.3%)	46/85 (54.1%)	69/81 (85.2%)
義務教育期間中*	145/168 (86.3%)	66/85 (77.6%)	79/83 (95.2%)
養護学校／特別支援学校の高等部*	123/167 (73.7%)	43/84 (51.2%)	80/83 (96.4%)
不登校の時期があった*	40/170 (23.5%)	26/85 (30.6%)	14/85 (16.5%)

\*有意差あり

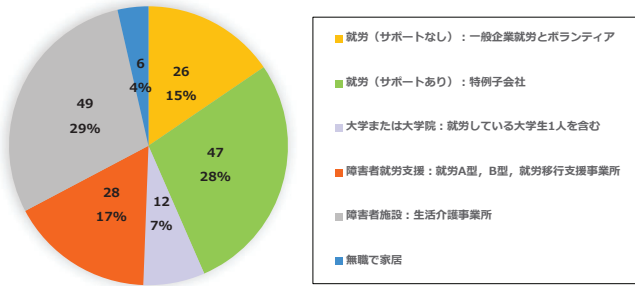
(Iwasa et al: J Child Psychol Psychiatry, 2022)

## 幼児期にASDと診断された人たちの成人期の転帰



(Iwasa et al: J Child Psychol Psychiatry, 2022)

## 社会参加（就労・高等教育） (N=168)



※ 無職で家居の6人中4人は5歳時IQ>85で、義務教育期間中に特殊教育/特別支援教育を受けなかった。

(Iwasa et al: J Child Psychol Psychiatry, 2022)

## 日常生活：一般人口との比較

平日	ASD (n = 165)	一般人口 (n = 139)
<b>家事</b>		
何らかの家事*	87(52.7%)	53(38.1%)
食事の管理*	71(43.0%)	30(21.6%)
掃除	29(17.6%)	27(19.4%)
衣類の手入れ	18(10.9%)	19(13.7%)
買い物	41(24.8%)	28(20.1%)
育児*	0(0%)	12(8.6%)
<b>セルフケア</b>		
睡眠	165(100%)	139(100%)
休憩*	106(64.2%)	20(14.4%)
入浴*	158(95.8%)	108(77.7%)
身支度	149(90.3%)	123(88.5%)
朝食*	144(87.3%)	89(64.0%)
昼食*	138(83.6%)	102(73.4%)
夕食*	162(98.2%)	115(82.7%)

\*有意差あり 一般人口は、社会生活基本調査（総務省,2016）から得られたデータ  
(Iwasa et al: J Child Psychol Psychiatry, 2022)

## 社会的活動への参加：一般人口との比較

日曜日	ASD (n = 163)	一般人口 (n = 263)	ASD (n = 163)	一般人口 (n = 263)
<b>対人交流</b>				
何らかの対人交流	40(24.5%)	55(20.9%)	何らかの娯楽・趣味*	66(40.5%) 38(14.4%)
人と直接会う	15(9.2%)	30(11.4%)	娯楽	18(11.0%) 19(7.2%)
家族との談話*	28(17.2%)	12(4.6%)	創作*	25(15.3%) 13(4.9%)
その他*	5(3.1%)	24(9.1%)	趣味(収集)*	23(14.1%) X
<b>スポーツ</b>				
何らかの運動*	35(21.5%)	32(12.2%)	その他	8(4.9%) 9(3.4%)
有酸素運動*	28(17.2%)	16(6.1%)	<b>機器の利用</b>	
球技*	2(1.2%)	14(5.3%)	何かしらの機器*	150(92.0%) 202(76.8%)
水泳	6(3.7%)	X	コンピューター*	92(56.4%) 59(22.4%)
その他	2(1.2%)	X	ゲーム	53(32.5%) 65(24.7%)
			TV鑑賞	93(57.1%) 137(52.1%)
			その他	28(17.2%) 28(10.6%)

\*有意差あり

一般人口は、社会生活基本調査（総務省,2016）から得られたデータ

(Iwasa et al: J Child Psychol Psychiatry, 2022)

## 薬物療法

向精神薬の処方	人数 (%)
処方歴あり(全体)	79 (47.0)
抗精神病薬	33 (19.6)
抗てんかん薬	24 (14.3)
睡眠導入薬	7 (4.2)
抗うつ薬	4 (2.4)
抗ADHD薬	4 (2.4)
調査時点で処方あり(全体)	45 (26.8)

(n = 168)

(Iwasa et al: J Child Psychol Psychiatry, 2022)

## 神経発達症・境界知能の子どもへの支援

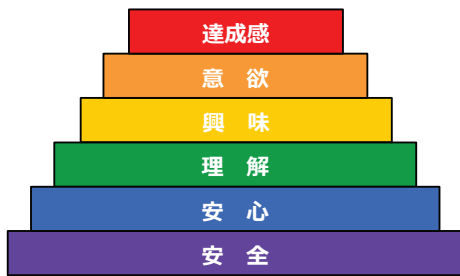
- 二次障害の発生予防が最も重要であり、その認識を親や教師が共有しておく必要がある
- 集中的に訓練すれば追いつくのではないかと親の期待を専門家が助長しない
- 子どもが十分に理解し吸収できるような教育上の配慮を受け続けることこそが権利であるとの認識を持てるよう、周囲の人たちを啓発する

## 神経発達症に対する支援の方向

### 「神経学的多様性(Neurodiversity)」の視点

- 生来性の生物学的変異
- 社会的マイノリティ
- … 人種問題や性的マイノリティなどへの対策と共通点がある

## 健康なこころの発達のキーワード



### ASDの子のアタッチメント

接し方の一貫性や  
継続性・法則性に  
安心や安全を感じて  
育まれる



### 一般的なアタッチメント

見守られることで  
親子関係に安心・  
安全を感じ育まれる



自閉スペクトラムの特性がある子の場合、対人関係が必ずしも重要なわけではありません。それよりも一貫性や継続性、法則性を安心・安全のもとにするところがあります

「マンガでわかる 発達障害の子どもたち-自閉スペクトラムの不可解な行動には理由がある-」  
本田秀夫 (著) フクチマミ (マンガ) SBクリエイティブ (2023年)

## 支援の専門性とは？

- 適切な発達の最近接領域を見極めること  
いま、獲得可能なこと  
まだ、獲得不可能なこと
- 予後の見通しに沿って、補完的アプローチを  
ためらわないこと

## 日常生活能力の判定 (障害年金診断書)

(判断にあたっては、単身で生活するとしたら可能かどうかで判断してください)

- 適切な食事
- 身の清潔保持
- 金銭管理と買い物
- 通院と服薬
- 他人との意思伝達及び対人関係
- 身の安全保持及び危機対応
- 社会性

## 少数派の学習や交流の場の保障

- 一般の人たちとは異なる独自の学習や交流
- 最も大事なものは「**自立活動**」  
手話や点字の学習  
知的障害に対する教科学習・生活学習
  - 当事者同士の仲間づくり

## 「せめてこれくらい」はNGワード！

- 「もう〇年生なんだから」
- 「高校くらい出ておかないと」
- 「自分がやりたいと言ったんだから・・・」



## 自己肯定感

健康的な自己肯定感は、

子どもの達成度が親や教師の期待を

上回ったときにしか育たない

## ADHD

- ふだんの多少のミスや抜けは大目に見つつ、本当に重要な場面だけは失敗せずうまくやることを目指す
- 薬物治療という選択肢もある

## ADHD:支援の目標

「コツコツ」よりも「一発勝負」

「前もって」よりも「ギリギリセーフ」

「姿勢」よりも「傾聴」

## やればできる！

### 周囲の視点

…だから普段からちゃんとやってほしい

### 本人の視点

…だから普段はやらなくてもいい

## 本当の自立とは？

### 自己決定力(自律スキル)

自分でできることとできないことを判断できる

### 相談力(ソーシャルスキル)

できないことについて他の人に援助を求める

## 神経発達症の人たちへの接し方

キーワードは、「理解と合意」

## 視覚的構造化は自己決定と相談のため

- 「見える化」でわかりやすく
- 十分な情報をもとに自己決定
- 同意、拒否の自由を保障
- 拒否の場合、別の選択肢を相談

## 口頭での指示が理解できない

箇条書きなどにして、本人にわかりやすい伝え方を



## 視覚的情報を用いた表出コミュニケーションの支援

- 拡大代替コミュニケーション(AAC)
- 書面
- SNS



## 自閉スペクトラム症

**「適当に」「だいたい」「もう少し」などの言葉に困惑**

→ 「15ページの終わりまで」「6割くらい」「あと10分」など  
**ピンとこない**

「終わったら帰っていいよ」だと、上司に報告せずに帰る

→ 「終わったら私に報告してから帰っていいよ」

**口頭の説明ではイメージをしっかりとめてない**

→ 書面や写真などを用いて視覚情報化して伝える

## 「しなくていいこと」を決める

### ASDの場合

- あいさつ、雑談
- 気配り、付度
- 周りに合わせること

### ADHDの場合

- 時間厳守
- 日々の積み重ね
- 良い姿勢

## 感覚過敏がある

- 聴覚、視覚、嗅覚、触覚、味覚などのいずれかの感覚を鋭敏に感じ過ぎて、つらくなる場合がある
- 練習しても慣れないばかりか、より鋭敏になってしまうことが多い
- 可能な限り苦手な感覚刺激にさらされることのないよう、環境を調整する

## 発達障害の人たちの就労スローガン

- 仕事は遊び半分でやれ
- 仕事は休み休みやれ
- スタートダッシュは、絶対にするな

## 発達障害の人にとって

能力と収入は比例するとは限らない

能力を活用しても収入につながらない人は、

ためらわずに福祉制度を利用しよう！

## 支援つき試行錯誤

- 共感しながら試行錯誤につき合う
- 情報提供と考えの整理は行うが、助言は控える

## 思春期以降の親の関わり

よかれと思って行った親の助言は、

ほぼすべて逆効果となる

親はすっこんでろ！

## 試行錯誤：定期的の方針の見直しを

- 方針の候補は、必ず2つ以上考えておく
- SOSのサインに敏感になる
- 失敗しても、絶対に本人を責めてはいけない

## 子ども、教師、親の関係



### 家族関係は良好に

- 一緒に活動して楽しむ
- 子どもに自由な選択と決定の保障を
- 親は情報は提供するが、助言はしない

### 親や教師以外の相談相手も、時に必要

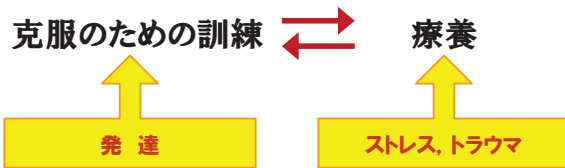
### 教師と親は密に連携を

- 親は子どもの様子を学校に伝える
- 可能であれば教師は子どもの助言者に
- 教師は子どもが興味をもてる活動の提案を



…進路選択の時期までに、この体制ができているのが理想！

## 問題改善への2つの方法



## 二次障害への対応を優先する

- 休息
- 職場・学校の環境調整
- 家庭環境の調整
- 相談支援
- 医療

## 二次障害の「症状」は、バロメーター

裏に隠れている原因を探る

「症状」そのものを力づくで止めてはいけない

## 過剰適応への対策

- 自ら希望していないのに新しいチャレンジを促してはならない
- 方針を視覚化し、アドリブ厳禁
- 本人が無理なくてきて、意欲をもてるものだけを提示する
- ステップアップを急がない

## 受験勉強のポイント

- 入試の前年の1学期に、**今の成績のままで入れそうな学校**をいくつか見学する
- もう少し頑張ったら入れそうな学校を、絶対に勧めてはいけない
- 「〇〇校に入りたいのだったら、頑張れ」と絶対に励ましてはいけない

## 行動の問題への対応

- リストカットなどの自傷行為、薬物依存、他者への攻撃的言動などの問題がある場合には、背景に深刻なストレスやトラウマ体験を抱えている場合がある
- できれば家族と連絡を取り、産業保健師、産業医への相談や精神科受診を勧める

## 疲れやすい人への対応

- 休み時間や休日を自主的に入れて構わない
- 登校や勤務の日数や時間の増加を支援者から勧めない

## やりたくないこと、苦手なことを避ける

そのためには、

- 「本当にやりたいことは何か」を意識する
- 避けることによって失うものが、自分にとってどの程度大切かを考える。
- …多くの場合、そんなに大切なものはない。  
(学歴、儲け話、友だちの数、地位、名誉など)

## 合理的配慮

当事者が自分のハンディキャップを開示し、配慮を求めてきた場合には、学校・事業所はその人が参加できるように過重な負担のない範囲で配慮する義務があると「障害者差別解消法」で定められている。そのような配慮のことを「合理的配慮」という。

## 合理的配慮は、当事者の希望が前提

- 本人が自分の特性に気づいていないのに合理的配慮をするのは、筋違い
- まずは、合理的配慮の検討ができる可能性を本人に示し、本人の意志の確認を



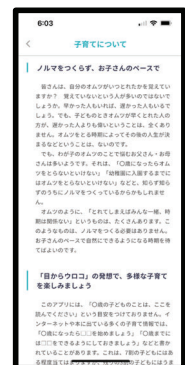
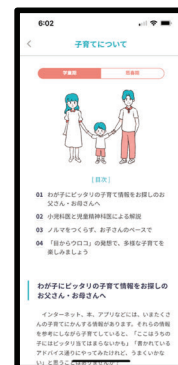
### ノルマをつくらず、お子さんのペースで

皆さんは、自分のオムツがいつとれたかを覚えていませんか？ 覚えていない人が多いのではないのでしょうか。早かった人もいれば、遅かった人もいるでしょう。でも、子どものときオムツが早くとれた人の方が、遅かった人よりも偉いということは、全くありません。オムツをとる時期によってその後の人生が決まるなどということは、ないのです。

でも、わが子のオムツのことで悩むお父さん・お母さんは多いようです。それは、「〇歳になったらオムツをとらないといけない」「幼稚園に入園するまでにはオムツをとらないといけない」などと、知らず知らずのうちにノルマをつくっているからかもしれません。

オムツのように、「とれてしまえばみんな一緒、時期は関係ない」というものは、たくさんあります。このようなものは、ノルマをつくる必要はありません。お子さんのペースで自然にできるようになる時期を待てばよいのです。

## よみもの



## Q & A



のびのびトイ

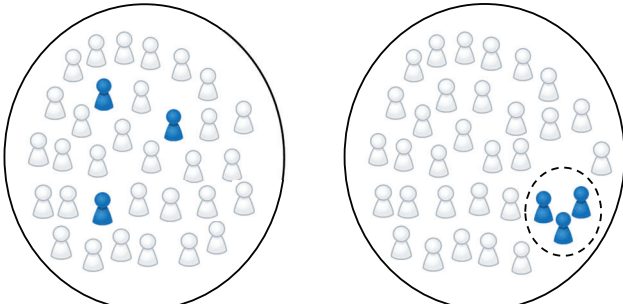
## コミュニティケア促進の 新たなキーワード

ネスティング(nesting)

活動拠点(nest)となるサブ・コミュニティを計画的に新規  
作成し、コミュニティの中に入れ込むこと



(本田ら, 2009)



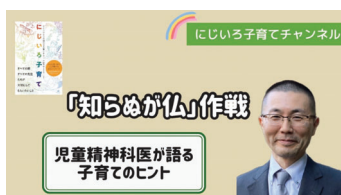
分散型

ネスティング

インクルーシブかつアイデンティティの  
保障されたコミュニティづくり

## 個性に合わせた多様な子育て

すべての子どもが、個性にベスト・フィットした楽しい環  
境で安心して成長できるよう、子育てと教育の文化  
を変えていきましょう！



## 参考図書

### 専門家向け

「アスペルガー症候群のある子どものための 新 キャリア教育  
—小・中学生のいま、家庭と学校でできること—」  
本田秀夫, 日戸由刈(編著) 金子書房(2013年)

「子どもから大人への発達精神医学—自閉症スペクトラム・  
ADHD・知的障害の基礎と実践」  
本田秀夫(著) 金剛出版(2013年)

「発達障害の早期発見・早期療育・親支援」  
本田秀夫(編著) 金子書房(2016年)

「知的障害・発達障害のある子どもの住まいの工夫ガイドブック  
—危ない! 困った! を安全・安心に—」  
西村顕, 本田秀夫(著) 中央法規(2016年)



## 参考図書

### 専門家向け

「知ってほしい 乳幼児から大人までのADHD・ASD・LD ライフサイクルに沿った発達障害支援ガイドブック」

齊藤万比古, 小枝達也, 本田秀夫(編集) 診断と治療社 (2017年)

「こころの医学入門: 医療・保健・福祉・心理専門職をめざす人のために」

近藤直司, 田中康雄, 本田秀夫(編集) 中央法規 (2017年)

「自閉スペクトラム症の理解と支援 — 子どもから大人までの発達障害の臨床経験から」

本田秀夫(著) 星和書店 (2017年)

「おとなの自閉スペクトラム — メンタルヘルスケアガイド」

本田秀夫(監修), 大島郁葉(編集) 金剛出版 (2022年)



## 参考図書

### 一般向け

「自閉症スペクトラム—10人に1人が抱える「生きづらさ」の正体—」

本田秀夫(著) SB新書 (2013年)

「自閉症スペクトラムがよくわかる本」

本田秀夫(監修) 講談社 (2015年)

「大人の自閉症スペクトラム」(DVDセット全3巻)

本田秀夫(監修) NHK厚生文化事業団 (2016年)

「なぜアーティストは生きづらいのか? — 個性的すぎる才能の活かし方—」

手島将彦, 本田秀夫(著) リットーミュージック (2016年)



## 参考図書

### 一般向け

「自閉症スペクトラムの子のソーシャルスキルを育てる本—幼児・小学生編」

本田秀夫, 日戸由刈(監修) 講談社 (2016年)

「自閉症スペクトラムの子のソーシャルスキルを育てる本—思春期編」

本田秀夫, 日戸由刈(監修) 講談社 (2016年)

「ADHDの子の育て方のコツがわかる本」

本田秀夫, 日戸由刈(監修) 講談社 (2017年)

「ひとりひとりの個性を大事にする にじいろ子育て」

本田秀夫 講談社 (2018年)



## 参考図書

### 一般向け

「発達障害がよくわかる本」

本田秀夫(監修) 講談社 (2018年)

「発達障害—生きづらさを抱える少数派の「種族」たち—」

本田秀夫(著) SB新書 (2018年)

「最新図解 女性の発達障害サポートブック」

本田秀夫, 植田みおり(著) ナツメ社 (2019年)

「あなたの隣の発達障害」

本田秀夫(著) 小学館 (2019年)



## 参考図書

### 一般向け

「『しなくていいこと』を決めると、人生が一気にラクになる—精神科医が教える「生きづらさ」を減らすコツ—」

本田秀夫(著) ダイアモンド社 (2021年)

「子どもの発達障害—個性の育て方—」

本田秀夫(著) SB新書 (2021年)

「学校の中の発達障害」

本田秀夫(著) SB新書 (2022年)

「10代からのメンタルケア『みんなと違う』自分を大切にする方法」

本田秀夫(著) KADOKAWA (2023年)



## 参考図書

### 一般向け

「マンガでわかる 発達障害の子どもたち—自閉スペクトラムの不可解な行動には理由がある—」

本田秀夫(著) フクチマミ(マンガ) SBクリエイティブ (2023年)

「知的障害と発達障害の子どもたち」

本田秀夫(著) SBクリエイティブ (2024年)

「発達障害の子どもの育ちを支える」(福祉ビデオシリーズ)

本田秀夫(監修) NHK厚生文化事業団 (2024年)

### 法人・事業所向け

「発達障害—職場における理解と支援—」

本田秀夫(監修) ライズファクトリー (2020年)

